

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 三原村農泊推進協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
高知県 三原村	平成29年度	体験プログラムを新たに開発し、受け入れ窓口を一本化することにより、観光客の誘致を進める取組で地域活性化を図る	体験型観光の拠点となる宿泊施設の整備

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

新たな体験プログラムの開発及びガイド研修を行っている。体験プログラムを実施し集客に繋げている。施設整備事業については施設のオープンに向け指定管理者を決定し、事前に作成した施設管理運営計画に従い管理運営を行うこととしている。体験プログラムの利用者数と宿泊施設利用者数の目標については、施設のオープンが遅れたことが要因。目標を達成するためには、施設のオープンに向け、ターゲットを明確にした上で地域の魅力を最大限に活かした体験メニュー等の充実をすることが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言)

ターゲットを明確にした上で地域の魅力(桃源郷・異空間)を最大限に活用し、利用者が求めるニーズに沿った体験メニュー等の提供を行うこと。
また、利用者が満足できる取組を行うために、村内での農業者等との連携を図り、体験メニューの開発・充実を図ること。

2. 低調と評価された要因

(令和元年度C評価 売上高c、宿泊者数c)

施設整備事業の目標に対して、施設のオープンが遅れたことにより売上額及び宿泊者数ともに低調となったことによる。

3. 目標達成に向けた方策

- ・農泊施設の恵まれた自然環境を活用した体験プログラムとして、川遊び体験の磨き上げ及び農泊施設敷地内の植物散策ウォークの開発を充実させた。
- ・三原村の魅力発信として、ホームページの見直し及びPRポスターを作成することにより充実させた。

4. 改善状況

- ・新たな体験プログラムの開発、既存の体験プログラムの充実化を図ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により参加者を募集することができなかった。
- ・施設の指定管理者についても、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、営業開始が難しい状況にあることから募集に至っていない。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 若桜谷活性化協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
鳥取県 八頭町	平成29年度	歴史的文化遺産と地域資源を活用した飲食・宿泊・販売事業と古民家での非日常体験、各種イベント等の取組で地域活性化を図る。	飲食・宿泊施設への改修及び駐車場の整備

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

農泊体験プログラム開発が行われ、地域創作メニュー開発が行われているが、利用者の増加に結びついていない。目標に対して施設の利用が低調。魅力ある宿泊プランの開発等が必要。古民家ウエディング、各種体験プログラムによる地域産業の育成、西条柿のブランディング、婚礼メニューの開発、地域の雇用創出が行われているが、目標に対して利用が低調。目標を達成するためには、ターゲットを明確にした上で魅力ある体験メニュー等の開発を進めるとともに、体験メニューを充実するために地域との連携を進めることが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言)

そこに泊まる必然性を知るために、他の古民家と比較し利用低調の要因を分析し改善を図ること。その上で、ターゲットを明確化し、魅力ある体験メニュー等の開発を進めるとともに、宿泊に繋がる地域独自の体験メニューを充実するために地域との連携を図ること。また、宣伝方法の工夫・改善を図ること。

2. 低調と評価された要因

(令和元年度C評価 地域の売上高c、宿泊者数c)

農泊推進事業では、体験プログラム及び地域創作メニューの開発が行われているが、利用者数の増加に結びついてない。施設整備事業では、目標に対して売上高及び宿泊数が低調なため。

3. 目標達成に向けた方策

コロナ禍という現下の厳しい経済状況にあつて、目標を『生き残る』に切り替えて日々活動しているのが実態である。特に、ひとたびクラスターを発生させたならば、実質的に数年間の閉門を余儀なくされる土地柄を踏まえ、ターゲットを地元客及び自然派に絞り、次のような方策で事業を継続している。

- 1) 1日1組を原則に、ターゲットを地元へ絞って活動している。(鳥取市内、八頭町内にチラシ配布)
- 2) 地元八頭町主催の「宿泊体験モニター」に参画。旅行会社の社員が宿泊家族の一員として宿泊。後日、社長さんが訪れ、積極的なコラボを推進中⇒6)。
- 3) 鳥取・但馬地域で実施されている「麒麟のまちスタンプラリー」に参加中。
- 4) 太田邸にVIPが宿泊された折、各種アドバイスをいただいた。VIP：宿泊スペイン政府観光局長 ハイメ氏、Gotoトラベルを制度設計した越智良典氏(東洋大教授)、井口智裕氏(雪国観光圏 代表理事)
- 5) 自然派旅行会社の営業マンを招へいするサムトリップに参画。太田邸に宿泊されたのは、風の旅行社、HIS関西営業本部長、神姫バス様
- 6) アフターコロナは、自然派旅行者が増加することを見込、株式会社ミキーツーリスト及び地域(若桜鉄道「丹比」駅周辺)の宿泊施設等がお互いの「足らず」を補い、分散型宿泊施設(沿線丸ごと宿泊施設)を準備中。その様子をNHKが特集(コロナ禍を生き残れ！旅行会社の挑戦)。全国版ネット配信の予定。
- 7) 徹底した感染対策の実施⇒鳥取県の感染対策認証店の認証を受け、日々感染対策を実施している。
- 8) 本来宿泊客向けに栽培している各種農作物を道の駅やJAに出荷し、一定の収益につなげている。

4. 改善状況

残念ながら、厳しいコロナ禍の影響を受け、売上高、宿泊者数とも改善はみられない。
上記のように、アフターコロナへの対応を実施しており、ワクチン接種が行き渡る11月以降並びに次年度の改善を見込んでいる。
何より、太田邸でクラスターを出さないことに注力しており、現時点関係者・来訪者・宿泊者からの感染者は確認されていない。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 庄原古民家ステイ推進協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
広島県 庄原市	平成30年度	現代の旅行者ニーズを正確に捉え、空き家古民家、里山風景、体験プログラム等の地域財産を「地域の稼ぐ装置」とする取組で地域活性化を図る	古民家の改修による宿泊施設への整備

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

築250年の空き家古民家を含む3棟を宿泊施設として整備し、先進地視察やPRツール作成を実施。体験プログラム造成、運営等アドバイザーの専門人材活用し、将来的に継続できる地域との運営体制づくりを構築によりインバウンド向けにブラッシュアップさせるための会社を招いたファムツアーなどのプロモーションを実施し、目標達成に向け活動していたが、コロナの影響により現在宿泊者数は伸び悩んでいる。目標達成するためには滞在を目的とするような魅力的なコンテンツを明確にした上で体験メニュー等を磨くことが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言)

滞在を目的とするような魅力的なコンテンツ(田舎ならではののんびり生活体験)を明確にした上で体験メニュー等を磨くこと。

2. 低調と評価された要因

(令和元年度C評価 地域の売上高c、宿泊者数c)

農泊推進事業及び施設整備事業ともに、目標に対して事業実績の売上高が伸びず低調となったことによる。

3. 目標達成に向けた方策

- ・コロナ禍で三密回避を売りにしたPR活動を実施(WEBサイトやSNSを活用した情報発信)。
- ・インバウンドから国内マイクロツーリズム層(県内および近隣県)にターゲットをシフトチェンジし、情報発信を強化(タウン誌への掲載など)。
- ・コロナ禍のため、宿内で完結できる体験プログラムの造成・ブラッシュアップ。BBQ商品、五右衛門風呂体験、天体観測などを新たに開発。

4. 改善状況

- ・令和2年度の目標宿泊客数 1,150人に対して実績 1,613人、体験メニュー売上目標 2,093千円に対して 2,482千円と状況は改善されている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 西植田地区活性化協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
香川県 高松市	平成30年度	日本最大級規模のオリーブ園を活かし、景観美も含めた高い付加価値と国産オリーブを使用した和食提供による取組で地域活性化を図る	農家レストランの新設

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

農泊の推進により交流人口の拡大を図り、ひいては定住人口の受入に向けて西植田地区の活性化を図ることとしている。周辺には有名うどん店やカフェもあるため、それらと有機的に結合。香川県で古民家を改修し実績を上げているデザイナーに監修を得て農泊の推進を図っているが、事業実績が低調。目標の達成をするためには、成功事例との差を認識し、低調の要因を分析した上で、体験プログラム、飲食、宿泊を伴う滞在時間延長に結びつく内容の充実、仕掛けづくりが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言)

利用者の大半は女性であることから、女性をターゲットとして、料理以外にも魅力づくりが必要。例えばオリーブを使い美容や健康に良い体験プログラムの開発やお風呂等オリーブにこだわった泊まる魅力づくりを図ること。また、例えばオリーブ絞るかすを地域の畜産農家に提供、オリーブ牛としてブランド化を図る等地域全体の活性化を図ること。

2. 低調と評価された要因

(令和元年度C評価 地域の売上高c、宿泊者数c)

農泊推進事業及び施設整備事業ともに、目標に対して事業実績の売上高及び宿泊者数が伸びず低調となったことによる。

3. 目標達成に向けた方策

- ・コロナ禍により集客が壊滅的に落ち込む中、今後の方策として指摘提案の通り、オリーブの持つ健康効果を前面に打ち出した商材開発を進めることになり、ポリフェノールの健康効果の高いオリーブ葉を利用した、パン、パスタ、スイーツをのメニュー開発に取り組むこととした。
- ・銀座のフレンチレストラン、日本橋の有名パン屋との共同開発により、具体的な商品として開発が進んでおり、これらを今後はカフェレストランメニューとして採用することで、女性層を中心とした健康志向の高い顧客の囲い込みを図るものとした。

4. 改善状況

- ・コロナ禍においても、夏の盆期間中はゲストハウスが満室となるなど、リピーター需要も含めて徐々に改善の兆しが顕著になって来た。
- ・オリーブの健康効果についての認識も、すでに先行して販売しているオリーブ茶が高い評価となって、インスタ映えするオリーブ畑の写真がSNS上で拡散される過程で、インスタ経由での検索よっての集客が多くみられるようになった。
- ・大手相場会社のテレビCMのロケ地としても撮影が行われ、これをきっかけに知名度も向上するものと思われ、明確に改善効果が現れてきていると思料する。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 平田農泊推進協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
島根県 出雲市	平成30年度	情報発信のためのWebサイト制作、木綿街道が提供する新体験開発など、地域の魅力向上に寄与する取組で地域活性化を図る	旧石橋酒造の改修による宿泊施設への整備

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

出雲市の滞在型観光の拠点エリアとしての開発を進めるため、旧石橋酒造を宿泊施設に利活用した「NIPPONIA 出雲平田 木綿街道」を開業したほか、情報発信のためのWEBサイト制作、木綿街道が提供する新体験開発を行い、地域の魅力向上に寄与する包括的な取り組みを実施したが、施設の利用実績が低調。目標達成するために地域と連携し地域独自のコンテンツを磨き推進を図ることが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言)

地域と連携し地域独自のコンテンツを磨き推進を図ること。特に既存の宿泊者からの情報から、求めているニーズを把握し、ターゲットを明確にした上でニーズに対応した宿泊、食事、体験メニューを充実すること。

2. 低調と評価された要因

(令和元年度C評価 地域の売上高c、宿泊者数c)

農泊推進事業及び施設整備事業ともに、目標に対して事業実績の売上高及び宿泊者数が伸びず低調となったことによる。

3. 目標達成に向けた方策

- ・取り組み地域との連携をさらに強化する。
- ・具体的には、宿泊施設HPで、地域ならではの魅力として地域の文化・人にまつわる紹介を強化。消費者がより行ってみたいと思える情報発信を行う。
- ・コロナ禍による影響も大きいいため、県の観光施策やGOTOトラベルなどを活用する。

4. 改善状況

- ・目標に対し売上額達成率 61%、宿泊者数達成率 54%と改善の方向に向かっている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: むかつ国で遊ぼう協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊地域高度化促進事業)
山口県 長門市	令和元年度	過去に農泊推進事業で製作したポータルサイトの英語化を行うとともに、交通手段や、無料Wi-Fiの提供場所の手厚い情報を掲載する取組で、インバウンドを含めた旅行者数の増加を目指す。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

環境整備のための取組は予定通り実施できたものの、目標として掲げていた訪日外国人の増加に対しては、受け入れ施設の開業の遅れやコロナウイルスの影響により、目標が達成出来ていない。目標を達成するためには、地域との連携を図り、体験メニューの充実を行うことが必要であり、低調と評価する。

(指導・助言等)

宿坊が完成し受入準備が整いつつある。農泊に結び付けるために、ターゲット(女性など)を明確にした上で向津具半島ならではの地域の特徴(楊貴妃伝説など)を活かした魅力ある体験メニューの充実を図る必要がある。そのために地域との連携を図ること。

2. 低調と評価された要因

- ・訪日外国人売上高の評価c、延べ宿泊外国人宿泊者数c。
- ・訪日外国人の受入を予定していた宿泊・体験施設の竣工が予定より遅延したこと、またコロナウイルスの影響により年度内の開業に至らなかったことから、事業目標として掲げていた売上、宿泊者数、体験プログラムの売上、参加者数の達成率が0%となった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・当該宿泊・体験施設では、令和2年度には、STAY JAPAN(<https://stayjapan.com/area/yamaguchi/nagato/pr/13175>)で、英語、中国語(簡体字、繁体字)の予約サイトを開設。アソビュー(<https://www.asoview.com/base/155130/>)では、令和2年度に予約受付を開始し令和3年度には宿泊も含めた掲載コンテンツ数を大幅に増加させた。また、現在、外国人宿泊者の集客に強いAirbnbへの掲載準備を進めており、Airbnb社とのやり取りを進めている。
- ・令和3年度は、宿坊を提供コンテンツの中核として地域と連携した宿泊・体験メニューの充実および広報戦略の見直しを行い、計画策定中である。

4. 改善状況

- ・訪日外国人の受け入れを予定している宿泊・体験施設は令和2年1月下旬に竣工し、宿泊・体験施設としての営業に必要な備品整備は同年3月に完了した。4月には住宅宿泊事業の届出も完了した。
- ・コロナウイルス感染症拡大の影響でキャンセルとなったが、国内に滞在中の外国人からの予約が入るようになっている。